

# 高知大学

## 研究協力校（課程又は障害種）

- ・高知大学教育学部附属特別支援学校（知的）

## 研究の成果

### 観点Ⅰ：

#### 各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

#### Ⅰ-1. これからの時代に即した教育課程の編成と教授方法

本事業初年度の高知大学教育学部附属特別支援学校は、これまでの高知県の知的障害教育の流れと、高知大学教育学部附属特別支援学校の教育課程を振り返り整理した。実践例として、現在高知大学教育学部附属特別支援学校で行われている実践から、障害種別・発達段階別に整理してまとめることで、これからの時代に即した教育課程の編成と教授方法について、方向性を提案した。提案は、「高知大学教育学部附属特別支援学校方式によるこれからの時代の教育課程の編成と指導方法に関する実践事例集（仮題）」としてまとめ、全国の特別支援学校並びに他の知的障害教育校にも参考となる実践事例集として発行する。

#### Ⅰ-2. 12の研究指導部

各学部を超えて教科領域ごと集められた12の研究指導部により、教育目標の達成や研究の状況などを検討している。年度始めに目標を設定し、計画を立て、年間通して活動し、年度末に教育課程に反映させている。また、行った研究は研究会や講演会で公表し、合意形成がはかられている。

## 観点 2：

### 教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

#### 2. 社会的自立と自己実現

高知大学附属特別支援学校では、児童や生徒が社会に巣立って、自他共に感じる存在感のある居場所があり、豊かな生活を送ることのできる自立と社会参加を目指して、教育目標を「社会的自立と自己実現」においている。社会的自立に向けては、児童や生徒の障害の程度や発達など、それぞれの実態に応じて、社会生活に必要な力を小学部から高等部まで系統立てて育てることを目標としている。また、自己実現に向けては、楽しいことをする要求やそれを計画して実行する力を育てることを目標としている。教育目標を実現するために、以下の観点3に示す4つの領域について、児童や生徒一人一人の障害種別・程度に応じた教育課題の解決に向けて、その種別・程度に適した教育方法による指導をめざしている。

## 観点 3：

### 個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

#### 3-1. 健康な身体や指先から体全体までバランスのとれた円滑な動きが育つ学習

日常生活をこなすためにも、就労生活(一般就労・福祉就労)を送るためにも、また、生活を楽しむことなど、全ての活動の元となる「健康な身体」を作ることに重点を置いている。バランスのとれた円滑な身体の動きや精神的な安定を保つことは、「社会生活を営むうえで大きな力となる」との考え方から、小学部から高等部まで、朝1時間目に身体の4つの発育曲線パターン(スキャモンの発達曲線)に基づいた「体育」を行っている(資料1)。



資料1 小学部での神経系発達を意識した運動

### 3-2. 身辺処理や家事など自立した生活を営むための基礎となる力が育つ学習

中学部も高等部も調理で使っているキッチンルーム(調理室)には、生徒一人ひとりに流しとコンロ、鍋や包丁などの調理用具一式、茶碗や皿などの食器類一式を備えた調理台が8台(8人分)と指導用の大きな調理台一式を備えている。中学部高等部共に、使用するレシピは、めくり式のカード形式のものや1枚に印刷されたものなど、生徒によって使い分けている。また、高等部では、タブレット端末に調理手順やレシピを入れて使う取組やインターネット上のレシピを使った調理にも取り組んでいる(資料2)。



資料2 インターネット上のレシピを参考に作った親子丼

### 3-3. 円滑な人間関係を行うために求められる力や職場で仕事を行う力が育つ学習

円滑な人間関係を行うための大事な手段の一つとして、相手の話を聞くことや相手に思いを伝え意思疎通をはかることに重きをおいている。小学部では、話しかける相手の肩などを軽くトントンと叩いて、振り向いてから用件を伝えることや、用件を終えた時には担任に報告することなど、基本的なコミュニケーションスキル(ソーシャルスキル)を高める内容を、学習の中に盛り込んでいる。言葉が十分に育っていない子どもに対しては、絵カードを使って意思を伝える方法を学ぶ学習を取り入れている(資料3)。



資料3 絵カードを使った意思の伝達方法

### 3-4. 楽しいことを見つけ、生活を楽しむ力が育つ学習

自分の楽しいことを見つけて余暇を楽しむことや、そのための方法など、生活を楽しむための学習を行っている。買い物、スポーツ活動、ホテル等の宿泊施設を利用した校外宿泊等を行っている（資料4）。乗り物の運行時間や乗車賃など施設に行くまでの方法や運賃、施設等を利用する場合はその施設の利用料金などを調べて実施する「わくわくチャレンジ」等、将来の余暇利用に結びつく学習に取り組んでいる。



資料4 買い物や宿泊施設を利用

#### 観点 4：

#### 障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

#### 4. 菓子工房 hocco sweets

菓子工房 hocco sweets は、食品加工作業から卒業生の雇用に向けた事業所化を目指し、平成 23 年度から高知発達障害研究プロジェクトと共同して、ドイツ菓子の製造と販売について研究を始めている。hocco sweets には、卒業生を製造と販売にそれぞれ雇用しており、雇用に向けた研究や高等部の生徒の作業学習・現場実習の場として日常的に展開している（資料 5）。



資料 5 菓子の販売と接客業務

**観点5：****多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施****5. 接客サービスの専門家による学習会の開催**

菓子工房 hocco sweets では、接客サービスの専門家を講師に招き、カフェでの接客業務について学習した。接客実習は hocco sweets で使用している制服で学習会に参加したが、制服の大きさ、袖やズボンの長さなど、最初の見た目から来る印象が大きかった。次も来てもらえるお店にするには、見た目も大事であることなどを学び、制服の着こなしの大切さから指導を受けた（資料6）。

Mさん	Nさん	Oさん	Pさん
<ul style="list-style-type: none"> <li>・メニューはこちらです。</li> <li>→メニューを指しながら言う。</li> <li>・明らかに1人で来たお客様には「何名様ですか」は聞かない。</li> <li>・グラスはガチャんと音をさせないように置く。</li> <li>・立ち位置は、お客様の斜め前。</li> <li>・笑顔はよかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様の対応は顔の見えるところまで出て行って対応する。</li> <li>・動きながら言うてしまう。</li> <li>→止まって言うようにする。</li> <li>・笑顔など感じがいのでよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしぼりを置く位置を決めておく。</li> <li>・オレンジジュースとなります。</li> <li>→“オレンジジュースでございます”に替える。</li> <li>・言葉の言い回しを適切に言えるように覚えると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いらっしゃいませをいいながらおじぎをする。</li> <li>→「いらっしゃいませ」を言ってからおじぎをする。</li> <li>・動きながら話をしてしまう。</li> </ul>

資料6 講師から生徒への指導例

**観点6：****新学習指導要領に対応した特色ある取組****6. システマティック・インストラクションに基づく生活単元学習の授業づくり**

高知大学教育学部附属特別支援学校は、システマティック・インストラクション（課題分析、指示の四階層、最小限の介入）（小川, 2012）をスキル獲得に向けた指導に取り入れて一定成果を上げてきた。知的障害教育校のこれからの時代に即した教育課程を考えるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現する教授方法(システマティック・インストラクション)と、その展開について実践研究を行い、授業モデルを提案する。

小川 浩（編著）（2012）. 障害者の雇用・就労をすすめるジョブコーチハンドブック  
エンパワメント研究所